

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに関心する看護師の育成に努めることである。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（学長補佐）

委員：石垣教授（学長）、林（静）准教授、金谷講師、磯助教、松本助教、磯助教、山崎助教、
今方助教、瀧澤助教、濱鍛冶特任助手

事務局：澤本主幹兼係長 納橋専門員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコースとして、がん専門看護師コースの大学院生を対象にしたコースである。本学1名、福井大学1名の計2名の申し込みがあり、北信がんプロのe-learning科目とがん看護専門看護師の科目の履修を進めている。修業年限は2年であり、今年度の修了者は1名である。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の2つのコースへの募集および成績判定を行った。

1) 「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は1名が履修した。

2) がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、10名が申請した。

3. がんプロ企画の実施と評価

今年度は、3つの公開講座と、2種類の事例検討会を実施した。

1) ライフステージ事例検討会およびCNS対象クロズド事例検討会企画・評価

① ライフステージ事例検討会を実施した。

今年度は、6月から翌年3月までの期間に計8回の事例検討会を企画し、計732名の看護師、医師、薬剤師、OT/PTが参加し、昨年度552名を大きく上回った。今年度は信州から2施設の参加が増え、活発な意見交換を行えた。

② CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクロズド事例検討会を2回実施した。7月13日には、北里大学病院のがん看護専門看護師の坂下智珠子さんをお呼びし、13名が参加した。9月10日には、石垣靖子先生をお呼びし、14名が参加した。9月は、石垣靖子先生の「緩和ケアと臨床倫理」と題する講義もあり、講義には約40名が参加した。

2) 「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」公開講演会の実施・評価

9月29日(土)13:00～15:30にホテル金沢にて、「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」を開催した。第1部は、金沢医科大学の安本和生教授の「真の個別化、がんゲノム医療の到来」、第2部は、東邦大学看護学部の村上好恵教授を講師としてお呼びし、63名の看護師、薬剤師、医師が参加し、活発な意見交換も行われた。

3) 「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」＜基礎編＞および＜アドバンス編＞の企画・評価

① 石川県済生会金沢病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の高地弥里さんを講師として招き、8月5日(日)に本学成人看護学実習室にて実施し、52名の看護師が参加した。演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について高地先生に指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の実演により、これからは実践していけそう」という意見も得られた。また「浮腫のアセスメントをしっかりしたうえで、施術方法も把握して対応したい」など、知識を持つことやアセスメントの重要性も学べたことが伺えた。

② 基礎編の1か月後、9月8日(土)に、高地弥里さんと時山麻美さん（富山県立中央病院、がん専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から 11名が参加した。基礎編に引き続き、より実践に活かせる内容の支援をした。

4) FD・SD講演会の企画・評価

平成31年3月2日(土)にホテル金沢にて、北陸CNSの会との共催にて、「人生最終段階の生をどう支えるか ～人生から治療の意味を考える」と題した事例検討会及びシンポジウムを開催し、114名の看護師の参加があった。

第1部で、富山県立中央病院の時山麻美さんによる事例提供ご質疑応答がなされ、事例に関して、古谷和紀（京都大学医学部附属病院、老人看護専門看護師）、平優子（市立砺波総合病院、がん看護専門看護師）、松本友梨子（福井県済生会病院、がん看護専門看護師）によるレクチャーの後意見交換をおこなった。老年のがん患者が多く、意思決定支援やその人らしさへの看護を悩む中でとても参考になったとの意見があった。

4. 海外研修の報告会

平成30年3月24日(土)～3月30日(金)の期間、オーストラリアのメルボルンに、「メルボルン緩和ケア視察研修2018」を企画し、14名の看護師、医師、薬剤師が、石川県、福井県、富山県、長野県から参加した。その報告会を、2018年5月、テレビ会議システムを用いて、6大学同時に開催した。オーストラリアにおける緩和ケアの歴史は長く、1967年近代ホスピス運動がイギリスで起こり、植民地であった歴史を持つオーストラリアは早くにその影響を受けた。1980年代にかけて在宅における終末期ケアのニーズが高まり、それに沿う形で在宅緩和ケアが発展した。在宅緩和ケアの実践の歴史のあるオーストラリアの緩和ケアの現状を視察することで、北信地域における緩和ケア実践のヒントを得ることができた。

外部報告

平成30年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）連携大学の負担金
6,700千円